

柳島の

福泉寺のお薬師様

平成元年十月五日号

田子浦地区の柳島にある福泉寺というお寺には、高さ二十センチぐらいの石のお薬師様があります。今回は、この石仏のお話を住職の岩佐善公よしきみさんに伺いました。

波打ち際で光る仏様

昔、弘法大師が土佐の浜辺の村で、石のお薬師様を刻みました。

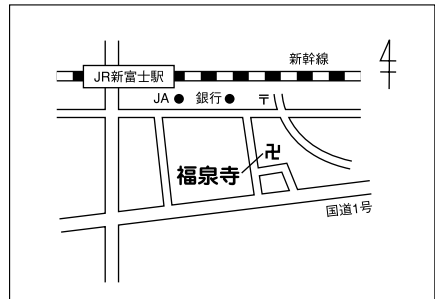
それから何百年かたったある年の秋のことです。大磯（神奈川県）の海岸に光る物があ

り、村人の評判になりました。しかし、漁師は怖がつてだれも近寄りません。

そのころ、大磯で曾我兄弟の菩提を弔って、ひっそりと暮らしていた虎御前が、「私が行って見てきましよう」と言って、その光る物を拾って来ました。

それは、石のお薬師様でした。

ある日、近くを西行法師が通りかかったので、虎御前はお薬師様を見てもらいました。すると「これは弘法大師の作だ。大切にしないさい」と言われ、虎御前は、ねんごろにお祭りしました。



仏様を福泉寺へ…

次の年、曾我兄弟の七回忌を済ませた虎御前は、尼の姿で信濃の善光寺へ旅立ちました。



お薬師様の掛け軸 ▲
お薬師様 ▶
(平成14年1月撮影)

そして、善光寺でおこもりをした後、諸国巡礼の旅に出、信州の佐久というところで亡くなりました。

そのとき、虎御前はお薬師様を使いの者に頼んで「富士のふもとの福泉寺というお寺は、曾我兄弟をお祭りしてあります。どうかこの仏様を福泉寺へ…」と言って息を引き取りました。

ところが、使いの者が鷹岡の福泉寺と柳島の福泉寺を間違えて、柳島の方へ届けましたので、その後、このお寺でお薬師様をお祭りしています。

自然と信仰心がわく

岩佐さんは「お薬師様を見ると、古さの中に歴史を感じ、自然と信仰心がわいてきます」と語ってくれました。

※お薬師様は一般公開していません。

語ってくれた方 岩佐善公さん